

アメリカにおける高大接続プログラムの単位認定

—ハワイ州の高等教育機関を対象として—

小川佳万*

小野寺 香**

アメリカ・ハワイ州では学力の高い高校生を対象とした高大接続プログラムとして、ランニング・スタート、APプログラム、IBプログラムの三つが実施されている。これらのプログラムは、その実施方法にいくつかの違いはあるものの、優秀な高校生に大学レベルの科目を学習させ、さらに大学の単位を取得することができるという点で共通しており、高校生が大学教育へ円滑に移行できるための役割を果たしている。ただし、そうしたプログラムの大学側の単位認定の方法は、セクター別やプログラム別に大きく異なっている。本論ではこの点を詳細に検討する。

キーワード：ハワイ州、APプログラム、IBプログラム、ランニング・スタート、単位認定

はじめに

近年、高校生や大学生の学力低下問題がクローズアップされ、それに伴い高校教育と大学教育をどのように接続していくのかという問題がさかんに議論されてきている¹。各大学にあっては補習教育内容やレベル設定の問題から、それ以前の入学者選抜方法にも頭を悩まし、さらに国家的には高校教育課程をどう再編すべきなのかという議論にまで至っている²。そしてそれは何も学力の低い生徒だけを対象とするものではなく、逆に学力の高い生徒に対しても高校時代に大学の学習内容をどのように「先取り学習」させるのかという問題も同時に議論されてきている³。

ところで、アメリカでは高校教育は義務教育である州が多く、生徒間の学力差が大きいという事情を考慮して学力優秀な高校生に対して様々な高大接続プログラムが提供されてきた。その目的は、彼等の学習意欲を高め、高校教育から大学教育へ円滑に移行させることにあるが、高校生個人にとってみれば、その履修が有名大学への進学の可能性を高めることにもなる⁴。したがって、その現状や課題を詳細に検討することは、我が国の学力優秀な生徒に対する高大接続問題に極めて重要な示唆を提供するものと考えられる。

本テーマに関連する先行研究では、ワシントン州を事例として様々な高大接続プログラムの種類を紹介した河合の研究⁵や、ミネソタ州を事例に教育スタンダードの効果とその大学入試への適用

*東北大学大学院教育学研究科准教授

**東北大学大学院教育学研究科博士課程前期

の可能性を検討した腰越の研究がある⁶。これらの研究では、職業教育に重きを置いたテク・プレップ (Tech Prep) や、高校生が大学において授業を受けるランニング・スタート (Running Start)、そして学業成績が優秀な生徒を対象にしたアドバンスト・プレイズメント・プログラム (Advanced Placement Program: 以下「AP プログラム」) や国際バカロレア・プログラム (International Baccalaureate: 以下「IB プログラム」) 等の概要について我々に有益な情報を提供している。特に IB プログラムに関しては、相良・岩崎等の研究が IB プログラムのカリキュラム構成やその試験評価等に関して詳細に検討していてこちらも貴重である⁷。

ただし、アメリカの高大接続プログラムに関連したこうした先行研究には、各高等教育機関が実際にそれらのプログラムをどのように活用しているかという点を明らかにしていないという問題がある。「教育接続」を強調するのであれば、大学側のこうしたプログラムの活用の仕方 (単位認定等) が非常に重要なポイントとなるが、この点については検討されていないのである。したがって、本稿ではこの点をできるだけ明らかにすることを目的とする。そしてその際には、一つの地域から、当該プログラムの単位認定について検討する必要があるだろう。なぜならアメリカの州立大学では州内と州外の学生との間で著しい授業料格差を設けていることから推察されるとおり、どの州でも大多数の高校生は州内の大学に進学しているからである。したがって州内の高校生がどんな高大接続プログラムをどの程度受講しているのかを明らかにするだけでなく、私立大学も含めて州内の高等教育機関全体がそうしたプログラムに対してどう対応しているのかについても総合的に明らかにする必要があるだろう。

そこで本稿では、一つの事例としてハワイ州の高等教育機関を対象とすることにする。ハワイ州を対象とする理由は、高等教育機関の数が少なく、私立大学も含めて州内の高等教育機関がどのように高大接続プログラムを認定しているかを把握することが比較的容易となるからである⁸。以下では、まずハワイ州内の高等教育機関と高大接続プログラムの種類について上述した先行研究を参考にしながら簡潔に言及し⁹、次に実際に各高等教育機関がそれぞれのプログラムをどのように活用しているかについて分析する。具体的にはセクター別やプログラム別の相違点について明らかにし、最後に全体的な考察を行うことにしたい。

1. ハワイ州における高等教育機関と高大接続プログラム

(1) 高等教育機関の種類

ハワイ州には現在計17校の高等教育機関が存在し、表1はそれらをセクター別に示したものである¹⁰。表1から明らかなおお、ハワイ州の高等教育機関のうち州立4年制大学にはハワイ大学ヒロ校 (University of Hawaii at Hilo)、マノア校 (University of Hawaii at Manoa)、ウエスト・オアフ校 (University of Hawaii West Oahu) の3校がある。そのうち修士課程と博士課程の設置はマノア校とヒロ校であり、ウエスト・オアフ校は学士課程のみとなっている。各校の学生数に関しては、最も多いのがマノア校で1万3,438人が在籍している。これはヒロ校の3,208人とウエスト・オアフ校の1,094人と比較してもかなり多いことがわかる。いっぽう、州立2年制のコミュニティカレッジ

では、ハワイコミュニティカレッジ (Hawaii Community College)、ホノルルコミュニティカレッジ (Honolulu Community College)、カピオラニコミュニティカレッジ (Kapiolani Community College)、カウアイコミュニティカレッジ (Kauai Community College)、リーワードコミュニティカレッジ (Leeward Community College)、マウイコミュニティカレッジ (Maui Community College)、ウィンドワードコミュニティカレッジ (Windward Community College) の7校が存在する。それらの規模については、学生数が最も少なく840人しか在籍していないカウアイコミュニティカレッジから、4,909人の学生を抱えるカピオラニコミュニティカレッジまで、その差が大きい。そして、この4年制と2年制を合わせた州立大学10校は、ハワイ大学システム (University of Hawaii System) という一つのシステムとして同じ理事会に管理されている。

表1 ハワイ州における高等教育機関の種類

		大学	学生(学士・準 学士課程)数
公立	4年制	University of Hawaii at Hilo	3,208
		University of Hawaii at Manoa	13,438
		University of Hawaii: West Oahu	1,094
	2年制	University of Hawaii: Hawaii Community College	2,310
		University of Hawaii: Honolulu Community College	3,326
		University of Hawaii: Kapiolani Community College	4,909
		University of Hawaii: Kauai Community College	840
		University of Hawaii: Leeward Community College	4,598
		University of Hawaii: Maui Community College	2,303
		University of Hawaii: Windward Community College	1,761
私立	4年制	Brigham Young University-Hawaii	2,309
		Chaminade University of Honolulu	1,046
		Hawaii Pacific University	6,505
	2年制	Hawaii Tokai International College	51
		Heald College: Honolulu	995
		TransPacific Hawaii College	176
	2年制 (proprietary)	Remington College: Honolulu	455

出所) College Board(2009). College Search.

<http://collegesearch.collegeboard.com/search/adv_results.jsp> をもとに作成。

いっぽう、私立の高等教育機関を見ると、まず4年制大学はブリガム・ヤング大学ハワイ校 (Brigham Young University-Hawaii)、ホノルルチャミネイド大学 (Chaminade University of Honolulu)、ハワイパシフィック大学 (Hawaii Pacific University) の3校が存在し、このうち学生数が最も多いのはハワイパシフィック大学で6,505人が在籍している。そして、ブリガム・ヤング大学ハワイ校の2,309人、ホノルルチャミネイド大学の1,046人と続いている。次に、2年制大学について

は、ハワイ東海インターナショナルカレッジ (Hawaii Tokai International College)、ヒールド大学ホノルル校 (Heald College: Honolulu)、トランスパシフィックハワイ大学 (TransPacific Hawaii College)、そして企業によって運営されているレミントン大学ホノルル校 (Remington College: Honolulu) の4校が存在している。これらの学生数を見ると、最も多いのがヒールド大学ホノルル校の995人であり、州立コミュニティカレッジのそれと比較すると極めて少ないことが分かる。

では、これらの高等教育機関は高大接続プログラムに基づいてどのように単位認定を行っているのだろうか。この点を明らかにするためには、そもそもハワイ州でどのようなプログラムが実践されているかについて言及しておく必要がある。したがって、以下では、まずハワイ州において実践される高大接続プログラムの概要を示すことにする。各大学が活用するプログラムに関して検討したところ、主にランニング・スタート、APプログラム、IBプログラムが実践されていることが確認できた¹¹。そこで、以下ではこれら三つのプログラムに焦点を当て、その特徴について言及していく。

(2) ランニング・スタート (Running Start)

ランニング・スタートは、高校生が大学で開設される科目を履修し、大学と高校の単位を同時に取得するプログラムである。同プログラムに参加する生徒は、高校のコースワークの一部として大学の科目を履修し、当該大学で行われる期末試験の成績で一定の成績を取れば高校と大学の両方の単位を取得することができるのである。ランニング・スタートによって高校生を受け入れるハワイ州の高等教育機関としては、ハワイ大学マノア校以外のすべての州立大学9校があてはまる¹²。そして、このプログラムの対象となるのはハワイ州の公立高校に通う11学年か12学年の生徒で、Computerized Adaptive Placement Assessment and Support System (COMPASS) テストを受験しその成績が一定水準に達していることがその参加資格となっている。このCOMPASSテストとは、コミュニティカレッジが英語と数学に関して新入生のクラス分けを行うために実施する試験で、ハワイ州立のすべてのコミュニティカレッジが行っている¹³。

ランニング・スタートによる大学履修科目の授業料は基本的に参加生徒自身の負担となるが、連邦政府による貧困家庭認定者が対象のランチプログラムに該当する生徒は、Gaining Early Awareness and Readiness for Undergraduate Program Hawaii (GEAR UP) から奨学金を与えられる。このGEAR UPは、より多くの低所得層の生徒に高等教育機関へ入学するのに必要な学力を身につけさせることを目的とし、州に対して6年間の競争的資金を交付する連邦政府のプログラムである¹⁴。ハワイ州では、この奨学金の上限を年間に7万5,000ドルに設定しているが、この奨学金を受給するには、ランチプログラムに該当し、過去に奨学金を受けた経験のない生徒が優先される¹⁵。

ランニング・スタートへ参加する場合、高校生は大学生と同じ扱いになる。すなわち、大学教員はプログラムに参加する高校生に対して、一般大学生と同レベルの予習や授業参加率を期待するのである。例えば、当然ながら高校の授業スケジュールと大学のそれは異なるため、高校が休日でも、大学では授業が実施される。そのような場合も、同プログラムへ参加する高校生は大学へ科目を受講しに行く必要があるのである。このように、生徒個人の授業のスケジュールがタイトになること

や、あるいは大学の授業のレベルが高いためについていけないといった理由から、高校生が同プログラムを辞めることも可能である。ただし、その学習歴は残るため、生徒の大学進学にネガティブな影響を及ぼす場合もあることは留意する必要がある¹⁶。

上述のとおり、高校生がランニング・スタートによって高校と大学の単位を取得できるかどうかは、大学で実施される期末試験の成績次第である。ハワイ大学システムは、アカデミックスタンダードポリシーとして、学生はセメスタ(学期)ごとにそのGPA値を2以上に保たなくてはならないと定めている。つまり、GPA値が2以上であることは大学の卒業要件であり、これはランニング・スタートへ参加する高校生にも適用される。同プログラムに参加する高校生は、このポリシーを満たしながら大学の科目履修をすれば、高校と大学の両方から単位を取得することができるのである。その際、高校の成績については、大学側が期末試験の成績を生徒の在籍する高校へ送り、高校はそれらの成績を教育委員会のガイドラインに従って、高校の成績証明書に記載することになっている。また、同プログラムによって取得した大学の単位は、受講した大学の単位としてだけでなく、ハワイ州内の他大学や他州の大学の単位としても認められることもある¹⁷。

(3) APプログラム

APプログラムは、学業成績が優秀な高校生に対して大学1-2年次レベルの授業科目を履修する機会を与え、その試験結果が優秀であれば、大学の単位として認定される全米規模のプログラムであり、カレッジボード(College Board)によって運営されている。ただし、その授業は高校のキャンパスにおいて高校教員が実践し、AP試験の結果に応じた単位認定の方法は大学ごとに異なっている。

APプログラムに含まれる科目は、英語や数学などのいわゆるアカデミックな科目のみならず、芸術、音楽、情報処理学といった科目もあり、非常にバラエティに富んだ合計37科目となっている。上述のとおり、これらのAP科目は高校で高校教員が授業を行っており、生徒はその授業履修に特別な授業料を支払う必要はない。一方、AP試験を受けるにあたっては1科目ごとに受験料を支払わなくてはならない。2009年には、その費用は86ドルとなっている¹⁸。この金額は決して安いものではないため、これが負担となり受験が困難な生徒も存在する。したがって、カレッジボードや各州は、主に低所得層の生徒を対象としたいくつもの受験料減額措置を講じている。AP試験は全国共通の試験であり、毎年5月に2週間ほどかけて実施される。試験の成績は1から5までの5段階で評価され、その成績に基づいて大学側は単位認定等を行う。また、大学とは別に、カレッジボードはAP試験成績優秀者に対する表彰制度も設けており、生徒にとってはプログラムへ参加するインセンティブの一つとなっている。

カレッジボードは1955年からAPプログラムの運営を本格的に開始し、当初のプログラム参加者はかなり少数であった。しかし、それ以来プログラムへ参加する生徒、高校、大学数は劇的に増加し著しい発展を遂げてきた。同プログラムの開始からおよそ50年が経過した現在では、約130万人の生徒が参加し、約1万6,000校の高校で実施され、約3,600校の大学で単位を認定しており¹⁹、今後

どこまで増加するのか注目に値する。ハワイ州に関しても同様な傾向が見られ、AP プログラムは年々拡大していると言える。表2は、ハワイ州における AP 試験受験者数(延べ人数)を1998年度から2008年度まで示したものである。

表2 ハワイ州における AP 試験受験者数の推移

年度	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
受験者数	4,618	5,056	5,304	5,514	6,225	6,426	6,594	7,058	7,815	8,059	8,857

出所) College Board (2009). AP EXAMINATION VOLUME BY REGION
 < http://professionals.collegeboard.com/profdownload/Volume_by_Region_11-1.pdf>

表2から、ハワイ州において AP 試験を受ける人数は1998年度から2008年度まで一貫して増加していることがわかる。具体的には、1998年には受験者数が4,618人であったのが、翌年1999年には5,000人を超え、さらに2002年には6,000人に達している。また、2005年には7,000人を超え、その2年後の2007年には8,000人にまで増加している。ただし、表2に示す人数が「延べ人数」であることには注意する必要がある。上述のように、AP プログラムは合計37科目あり、一人の生徒が複数科目の試験を受験することが可能である。したがって、表2のみからプログラムに参加する生徒の数がどれだけ増加したかについて正確に把握することはできない。しかし、延べ人数であってもその数は増加の一途をたどっていることから、ハワイ州において同プログラムが拡大の方向に向かっているということは疑いのない事実であると言える。

(4) 国際バカロレア (IB プログラム)

IB プログラムは、中等教育の最終2学年の生徒に共通カリキュラムを設定し、最後に実施される統一試験で好成績を取れば IB の資格が取得できるプログラムである。資格取得者は世界の多くの国々で大学入学資格と同等の資格を有すると認められるため、国際学校を中心に日本でも IB 用の授業が実践されている。また、アメリカにおいてもこのプログラムに参加する生徒数は、2008年に4万9,091人を記録し、近年増加傾向がみられる²⁰。

IB 資格取得のための試験は、2年以上にわたって正規に学習した6科目について行われる。その6科目とは、あらかじめ定められている6つの科目群から1科目ずつ選択することになる。そして、各科目には、上級レベル (Higher Level) と標準レベル (Standard Level) とがあり、ディプロマ取得のためには6科目のうち3、4科目は上級レベルを履修する必要がある。上級レベルの科目は2年間で240時間以上、標準レベルでは150時間以上の学習が要求されている。

6科目群の内容は、「第1言語 (Language A1)」、「第2言語 (Second Language)」、「個人と社会 (individuals and societies)」、「実験科学 (Experimental science)」、「数学と情報処理学 (Mathematics and computer science)」、「芸術 (The arts)」となっている。

まず、「第1言語」には、自国の文化を維持するという趣旨から80以上の言語が用意されており、そこで生徒は第一言語の文学に関して学習する。次に、「第2言語」には、外国語学習初心者 (Language

ab initio)、既習外国語としての第2言語学習者(Language B)、第1言語に準ずる高度な言語能力のあるバイリンガル(Language A2)といった3つのレベルのコースが用意されている。各コースは文章と口語によるコミュニケーション能力の育成に焦点を当てており、ラテン語や古代ギリシャ語の学習も可能である。「個人と社会」には、「ビジネスと経営学」、「経済学」、「地理学」、「歴史学」、「グローバル社会における情報工学」(標準レベルのみ)、「イスラム史学」、「心理学」、「社会および文化人類学」、「哲学」の9科目あり、生徒はこれらの中から1科目を選択し履修する。そして、「実験科学」については、「生物学」、「化学」、「デザイン工学」、「環境システム」(標準レベルのみ)、「物理学」の5科目の中から1科目選択し学習することになる。「数学と情報処理学」においては、数学は必修科目であるため、数学に関しては生徒のレベルに合わせた4つのレベルのコースが用意されている。いっぽう、情報処理学は選択科目となっている。最後に、「芸術」には「音楽」、「演劇」、「美術」が含まれており、生徒は作品を製作しながら幅広く創造性を探求する。ただし、「芸術」に関しては、他グループの科目を選択履修することもできる²¹。

このように、バランス良く履修した後、生徒は筆記試験を受ける。ディプロマを取得するためには、最後に行われるこの試験の成績が鍵となるのである。筆記試験では通常二つの課題が与えられ、これらは別々の日程で行うこともある。試験時間は一つの課題について90分であるため、二つの課題を合わせるとおよそ3時間となる。試験成績は1から7までの7段階評価であり、その採点はトレーニングを受けた専門試験管が一定の基準に基づいて行う。このように、ディプロマ・プログラムの評価は主に試験成績によるが、これに加えて学内評価も行われる。つまり、試験による(学外)評価を高校で各コース担当教員による学内評価が補填するのである。評価全体に占める学内評価の比重としては全体の20から30%となっているが、芸術科目のように実技内容を多く含む科目については、全体の50%ほどを占めている。これはIBが教員の専門性を認め、生徒の普段の学習活動も重視しているからである。生徒がディプロマを取得するためには、6科目の合計点数が24点以上でなくてはならない。言い換えれば、6科目それぞれで科目合格点である4点を獲得する必要があるのである²²。

このように、ディプロマの取得のためには6科目で好成績をあげる必要があるが、それに加えて満たすべき三つの条件がある。一つ目は「課題論文(Extended Essay)」であり、生徒は同プログラムの6科目のうち1科目に関連した研究課題を決定し、それを生徒自身が調べて英文4,000語以内、和文の場合は8,000字以内の論文を提出する。二つ目は「知識の理論(Theory of Knowledge)」で、これは学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を検討し、理性と客観的精神を養うことを重視するものである。ディプロマを取得するには、知識の理論の講義と演習を2年間にわたり100時間以上学習し、小論文と発表作品を提出する必要がある。そして、三つ目は「創造性・活動・奉仕(Creativity, Action, Service)」である。これは、学問以外の生活、地域に根ざした奉仕活動による経験や共同作業による協調性を重視したものであり、2年間にわたり芸術・音楽・演劇などの創造的活動、スポーツ活動、奉仕活動についてそれぞれ最低50時間ずつ、合計150時間以上が必修となっている²³。

以上のとおり、これまでハワイ州で実施されている高大接続プログラムの概要を紹介してきたが、実際高等教育機関はこれらを活用してどのように単位認定を行なっているのだろうか。以下では、この課題に基づき、APプログラムとIBプログラムを活用した大学側の単位認定システムについて具体的にみていくことにする。ここで、ランニング・スタートを考察対象から外すこととするが、それは、上述したとおり、同プログラムによって大学の単位を取得するには、大学の期末試験を受ける必要があるという点で、大学として単位認定システムを確立する必要がないためである。言い換えれば、当該科目を担当する教授の成績評定が直接単位認定につながっていることになる。いっぽう、APプログラムとIBプログラムについては、いわゆる「外部の」全国共通試験であるため、その成績に基づいた客観的な方針を大学ごとに定める必要がある。したがって、以下ではAPプログラムとIBプログラムに焦点を当て、ハワイ州における各高等教育機関がそれらのプログラムを活用して高校生に対してどのような単位認定措置をとっているのかについて具体的に言及することにする。

2. 高大接続プログラムの単位認定

(1) APプログラムの単位認定

既述のように、ハワイ州においてAPプログラムは年々普及してきているが、高等教育機関はプログラムをどのように活用しているのだろうか。カレッジボードは、AP試験の成績に関して、それが5であれば大学の成績のAに該当し、同様に4はA⁻、B⁺、あるいはBに該当し、3はB⁻、C⁺、あるいはCに該当するという見方を示している²⁴。つまり、カレッジボードはAP試験の成績が3以上であれば大学レベルに達していると判断しているが、ではハワイ州の高等教育機関はAP試験の成績についてどのように判断しているのだろうか。また、それは州立大学と私立大学ではどのように異なるのであろうか。以下では、州立大学の中からハワイ大学マノア校とヒロ校を、私立大学の中からブリガム・ヤング大学ハワイ校とハワイパシフィック大学を取り上げ、それぞれのAPプログラムの活用の仕方について示すことにする。

まず、州立大学であるハワイ大学マノア校におけるAPプログラムの単位認定システムを示したのが表3である。表3から、マノア校では31科目について単位認定等の措置を行っていることがわかる。既述のとおり、APプログラム全体の科目が計37科目であることに鑑みれば、かなり幅広く同プログラムを活用していると言えるが、認定の基準となるAP試験の成績、単位を取得できる大学の科目とその認定される単位数は科目ごとに異なる。また、認定される単位数に関しては、同じ科目であってもAP試験の成績によって異なっている。例えば、表中の「化学」をみると、生徒がそのAP試験において3を収めた場合、それはハワイ大学マノア校における「化学151」として3単位を取得したことを意味する。いっぽう、AP試験の成績が4であれば、マノア校においてそれと同レベルの科目は「化学161」であるため、「化学161」の3単位を取得することができ、同様に成績が5の生徒は「化学171」として4単位を取得することが可能となる。また、単位認定の基準となるAP試験成績に注目すると、「微積分」や「物理学」等はカレッジボードが示す指針と同様に、AP試験

の成績が3以上の生徒に対して単位を認定している。いっぽう、「ドイツ語」や「スペイン語」等の言語科目や「アメリカ史」等の歴史科目を含む文系科目については試験成績が4以上の生徒のみに単位を認定している。そして、「芸術史」に関しては、AP試験の成績が5でなければ単位を認定しておらず、かなり厳しい基準を設けていると言える。

表3 ハワイ大学マノア校における AP プログラム活用システム

AP試験科目	成績	該当科目	単位数	AP試験科目	成績	該当科目	単位数
芸術史	5	芸術101	3	アメリカ政治学	3, 4, 5	政治学130	3
スタジオアート	4, 5	学部による		比較政治学	3, 4, 5	政治学110	3
生物学	4, 5	生物学171、172	6	ヨーロッパ史	4, 5	歴史231、232	6
化学	3	化学151	3	アメリカ史	4, 5	歴史281、282	6
	4	化学161	3	世界史	4, 5	人文科学	3
	5	化学171	4	人文地理学	3, 4, 5	地理学151	3
情報処理学 A	3, 4, 5	情報処理学111	4	微積分 AB	3	単位は認定されないが、数学科の許可を得れば、数学科203、215、あるいは241のコースを履修することができる。	
情報処理学 AB	3	情報処理学111	4				
	4, 5	情報処理学111、121	7				
マクロ経済学	4, 5	経済学131	3		4	単位は認定されないが、数学科の許可を得れば、203、215、241、251A、あるいは242のコースを履修することができる。	
ミクロ経済学	4, 5	経済学130	3				
英語・作文	4, 5	英語100	3		5	数学241	4
英文学・作文	4, 5	文学(英語270-273)	3	微積分 BC	3, 4	数学241	4
環境科学	3, 4, 5	生物科学	3		5	数学241、242	8
フランス語	4, 5	フランス語202	3	音楽理論	3, 4, 5	音楽108	3
ドイツ語	4	ドイツ語202	3	物理学 B	3, 4, 5	物理学151、151実験、152、152実験	
	5	ドイツ語305	3				
テン:ウェルギリウス	4, 5	ラテン202	3	物理学 C (力学)	3, 4, 5	物理学170、170実験	5
ラテン文学	4, 5	ラテン202	3	物理学 C (電気学・磁気学)	3, 4, 5	物理学272、272実験	
スペイン語	4	スペイン語202	3				
	5	スペイン語301	3	心理学	3, 4, 5	心理学100	3
スペイン文学	4, 5	スペイン語362	3	統計学	3, 4, 5	社会科学225	3

出所) University of Hawaii Manoa(2009). Advanced Placement Examination.
 <<http://manoa.hawaii.edu/admissions/undergrad/pdf/AP.pdf>> をもとに筆者作成。

認定する単位数に注目すると、「物理学B」のAP試験で3以上の成績を取れば、生徒はそれによって大学における2科目分の8単位を取得することができ、同様に「生物学」、「情報処理学 AB」、「ヨーロッパ史」、「アメリカ史」も試験成績が4以上であれば2科目分の単位を取得することができる。また、「微積分 BC」については AP 試験の成績が5であれば「数学241」と「数学242」の8単位を取得することが可能となる。ここから、大学側の AP 試験に対する信頼度の高さがうかがえる。

次に、ハワイ大学ヒロ校における AP プログラムの活用方法を見ることにする。ヒロ校は、上述

のマノア校と同様にハワイ大学システムの中で管理される州立大学であるが、APプログラムの活用の仕方に関して両者はどれほど異なるのだろうか。表4は、ヒロ校がAP試験の成績を高校生の単位認定にどのように反映させているか示したものである。表4から、ヒロ校では計23のAP科目について単位の認定を行っていることがわかる。全体の科目数はマノア校より8科目少なく、具体的には「ドイツ語」、「スペイン文学」や「ラテン」といった言語科目に関してマノア校では単位の認定を行っているがヒロ校では認定していない。また、単位認定の基準となるAP試験の成績についてみると、マノア校よりも低めに設定しているようである。例えば、「フランス語」や「スペイン語」をみると、マノア校ではAP試験の成績が4以上でなければ大学の単位として認定していないが、ヒロ校では成績が3であっても「フランス語101」や「スペイン語101」として4単位を認めている。また、「生物学」に関しても、マノア校では単位認定の条件としてAP試験の成績が4以上の成績を取める必要があるが、ヒロ校ではAP試験の成績が3であっても、大学における「生物学101」、「101実験」として4単位を認定している。さらに、「化学」のAP試験で5を取めた場合、マノア校ではそれは「化学171」に該当し4単位を認定されるが、ヒロ校では、「化学124」と「化学125」という2科目に該当し、8単位の認定を行なっている。

ただし、「物理学」に関しては、マノア校がAP試験の成績が3以上の生徒に単位を認定しているのに対し、ヒロ校では成績が4以上の生徒のみに単位を認定しており、ヒロ校の方が単位認定の基

表4 ハワイ大学ヒロ校におけるAPプログラム活用システム

AP試験科目	成績	該当科目	単位数	AP試験科目	成績	該当科目	単位数
芸術史	4, 5	芸術101	3	アメリカ政治学	3, 4, 5	政治学101	3
生物学	3	生物学101、101実験	4	比較政治学	4, 5	政治学251	3
	4, 5	生物学150、150実験、153、153実験	8	ヨーロッパ史	3, 4, 5	歴史に関する下級科目	6
化学	3	化学114	3	アメリカ史	3, 4, 5	歴史281、282	6
	4	化学124	4	世界史	3, 4, 5	歴史151、152	6
	5	化学124、125	8	数学AB	3, 4, 5	数学205	4
情報処理学 AB	4, 5	情報処理学150、151	6	数学BC	3, 4, 5	数学206	4
マクロ経済学	3	経済学100	3	音楽理論	3, 4, 5	音楽185、185演習	4
	4, 5	経済学131	3	物理学B	4, 5	物理学106	3
ミクロ経済学	3	経済学100	3	物理学C	4, 5	物理学171	4
	4, 5	経済学130	3	心理学	4, 5	心理学100	3
英語・作文	4, 5	英語100	3	統計学	3, 4, 5	数学121	3
英文学・作文	3, 4, 5	英語200、100	3	環境科学	3, 4, 5	選択科目	3
フランス語	3	フランス語101	4	スペイン語	3	スペイン語101	4
	4	フランス語102	4		4	スペイン語102	4
	5	フランス語201	4		5	フランス語201	4

出所) University of Hawaii Hilo(2009).Advanced Placement

< <http://www.uhh.hawaii.edu/studentaffairs/admissions/documents/AP.pdf> > をもとに筆者作成。

準を高く設定している。このように、なかには例外もあるが、同じ州立大学であるマノア校と AP プログラムの活用の仕方を比較した場合、ヒロ校のほうが単位認定の基準を低めに設定しており、全体的に AP 試験の成績が3以上である生徒に対して大学の単位として認定する科目が多い傾向にあると言える。

いっぽう、上述のマノア校やヒロ校と同様にハワイ大学システム傘下のコミュニティカレッジに関しては、表3や表4のように AP 試験の成績に基づいた単位の認定に関する具体的な情報はカタログ等で言及していない。このことから、コミュニティカレッジでは AP プログラムによる単位の認定をあまり活用していないことがうかがえる。そもそも、AP プログラムは学業成績が優秀な生徒を対象に、大学1-2年次レベルの学習機会を提供するものであることから、オープンアドミッションを原則とするコミュニティカレッジではその必要があまりないものと推察される。

次に、ハワイ州における私立大学は AP プログラムをどのように活用しているのかについて検討する。その結果は州立大学のケースと大きく異なっている。例えばブリガム・ヤング大学ハワイ校の場合、高校で AP 科目を履修し、AP 試験で3以上の成績を取めた生徒については、どの科目についても8単位まで認定している²⁵。州立大学であるマノア校やヒロ校と比較すると、単位を認定する基準が低く設けられていることがわかる。このような低めの基準を設定する背景には、より多くの学生を集めたいという大学側の狙いがあると考えられる。高校在学中により多くの大学の単位を取得すれば、入学後に時間的にも経済的にも余裕が生まれるため、これは学生にとって大学入学への大きなインセンティブとなるのである。また、AP プログラムは大学1-2年次レベルの学習を念頭に置いたものであるため、その試験で3以上を取める生徒が多く入学することは、優秀な学生を獲得したという意味で大学にとってもメリットであると言える。

また、同様に私立大学であるハワイパシフィック大学における AP 試験の成績に基づいた単位の認定については、30科目という AP プログラムに含まれるほとんどの科目について、試験の成績が3以上であれば単位を認定している。次項の表5は、その30科目とそれに該当するハワイパシフィック大学で開設されている科目、そして認定する単位数を示したものである。単位認定の基準となる AP 試験の成績が一律に3以上となっているのはブリガム・ヤング大学ハワイ校と同様で、州立大学と比較して基準が低く設定されているからである。また、注目すべきは大学での該当科目、すなわち認定する単位数である。例えば、「アメリカ史」の AP 試験で3以上成績を取れば、ハワイパシフィック大学で開設されている「歴史2401」の3単位と「歴史2402」の3単位を合わせた計6単位として認定されるが、他の多くの科目でも同様に2科目分の単位を認定されている。特に、「芸術史」に関しては、マノア校では試験成績が5のみ単位が認定され、しかもそれは大学の1科目分の単位にしかない。ところがパシフィック大学の場合は成績が3以上であれば大学で開設する2科目分の単位を取得することができるのである。また、「生物学」、「英文学・作文」、「物理学」等も同様であり、そのような科目は30科目中20科目になる。この点からも、学生にとっては、州立大学よりも AP プログラムによって大学の単位を取得しやすいと言える。

表5 ハワイパシフィック大学における AP プログラム活用システム

AP 試験科目	該当科目	単位数	AP 試験科目	該当科目	単位数
芸術史	芸術史2200、人文学1000	3+3	ドイツ語	ドイツ語1100、1200	4+4
スタジオアート	芸術1001、1002	3+3	比較政治学	PSCI 2000	3
生物学	生物学2050/2051、2052/2053	5+5	アメリカ政治学	PSCI 1400	3
微積分 AB	3数学1140、2214	3+3	アメリカ史	歴史2401、2402	3+3
微積分 BC	数学2214、2215	3+3	ヨーロッパ史	歴史2001、2002	3+3
化学	化学2050/2051、2052/2053	4+4	人文地理学	人文地理学2000	3
情報科学 A	情報処理学2911	3	ラテン:ウェルギリウス	人文学1000、文学2000	3+3
情報科学 AB	情報処理学2911、2912	3+3	ラテン文学	文学2000	3
ミクロ経済学	経済学2010	3	音楽理論	人文学1000、音楽2001	3
マクロ経済学	経済学2015	3	物理学 B	物理学2030/2031、2032/2033	4+4
英語・作文	ライティング1100、選択科目	3+3	物理学 C	物理学2050/2051、2052/2053	5+5
英文学・作文	文学2000、ライティング1100	3+3	心理学	心理学1000	3
環境科学	環境科学2000、選択科目	3+3	スペイン語	スペイン語1100、1200	4+4
フランス語	フランス語1100、1200	4+4	スペイン文学	文学2000、3510	3+3
フランス文学	文学2000、選択科目	3+3	統計学	数学1123	3

出所) Pacific University.(2009). Advanced Placement Credits.
 < <http://www.hpu.edu/index.cfm?section=admissions4560>> をもとに筆者作成。

(2) IB プログラムの単位認定

上述のように、スイスに本部を置く国際バカロレア機構が授与するディプロマは、大学入学資格として国際的通用度も高いが、ハワイ州の高等教育機関はそれをどのように単位認定へ反映させているのだろうか。以下では、AP プログラムと同様に、州立大学と私立大学では IB プログラムによる単位の認定に関してどのような違いがあるのか具体的にみていくことにする。

まず、表6は州立大学であるハワイ大学マノア校が IB 試験の成績に基づいて単位認定を行う16科目のうち一部を示したものである。表6から、IB 試験の成績によって大学が単位の認定を行う科目には、芸術科目である「演劇」や、「ドイツ語」や「スペイン語」などの言語科目、そして「生物学」や「化学」といった理系科目まで幅広く含まれていることがわかる。ただし、すべての科目に関して、単位認定等のためには、標準レベルではなく上級レベルの試験を受けなくてはならない²⁶。また、AP プログラムと比較すると単位認定の対象となる科目数は全体的に少ない。

単位認定の基準となる IB 試験の成績はどの科目も一律に5以上と定められている。ディプロマ取得のための要件としての科目合格点が7点満点中4点であることを考慮すれば、単位認定の基準は全体として若干高めに設定されているようである。ただし、「数学」に関しては単位認定ではなく、マノア校で開設される「数学241」という科目の履修免除という措置がとられることになっている。単位数に関しては、「化学」と「物理学」は8単位、「スペイン語」と「経済学」は6単位を認定され、これら4科目についてはマノア校で開設されている2科目分の単位を取得することができる仕組みに

なっている。

表6 ハワイ大学マノア校による IB プログラムの活用システム

試験科目	成績	該当科目	単位数
生物学	5	生物学171	3
化学	5	化学161、161L、162、162L	8
演劇	5	演劇101	3
経済学	5	経済学130、131	6
英語 A1	5	文学	6
地理学	5	入門選択科目	3
ドイツ語 B	5	非入門選択科目	6
アメリカ史	5	人文学	3
数学	5	数学241の履修免除	なし
物理学	5	物理学151、151L、152、152L	8
心理学	5	心理学100	3
スペイン語	5	非入門選択科目	3
スペイン語 B	5	スペイン語202、301	6

出所) University of Hawaii Manoa(2009). International Baccalaureate
< <http://manoa.hawaii.edu/admissions/undergrad/pdf/IB.pdf> > をもとに筆者作成。

いっぽう、ハワイ大学ヒロ校では、IB プログラムによって積極的に単位の認定を行なっている状況は見取れない。ヒロ校では、単位認定に関して AP プログラムは積極的に活用していたことから、IB プログラムと比較すると AP プログラムへの信頼度の方が高いことがうかがえる。また、単位認定とは関係なくとも、例えば、ライティングクラス分け試験 (Writing Placement Exam) の受験免除の対象となるのは、AP プログラムの「英語・作文」の試験で4以上の成績を収めた生徒のみであり、同じ AP プログラムであっても「英文学・作文」の試験や IB プログラムの「英語」の試験成績はそれが例え優秀であっても考慮されない²⁷。ライティングクラス分け試験とは、大学入学後ライティングの授業を履修するに当たり、クラス分けに反映させるため、新入生が受験する試験である²⁸。

また、州立コミュニティカレッジについても、IB プログラムを活用している証拠は見られない。AP プログラム同様、IB プログラムも主に優秀児を対象にしたプログラムであるため、コミュニティカレッジではそう頻繁に活用されていないことが考えられる。

では、私立大学は IB 試験の成績を単位の認定にどのように反映させているのだろうか。ハワイ州立大学マノア校とはどのように異なるのだろうか。まず、ブリガム・ヤング大学ハワイ校をみると、マノア校とは異なり、IB プログラムに含まれるすべての科目に関して単位の認定を行なっている。また、マノア校では単位を認定するためには IB 試験は上級レベルのものでなくてはならないという条件が存在したが、ブリガム・ヤング大学ハワイ校ではそういった条件は存在せず、標準レベル

の試験であっても試験の成績が優秀であれば大学の単位として認めている。ただし、単位認定の基準となる IB 試験の成績は5以上であり、この点はマノア校と共通している。AP プログラムと同様、IB プログラムに関しても単位認定の基準を低く設定しており、学生にとっては大学の単位を取得しやすい環境が整っていると言える。

次に、同じ私立大学であるハワイパシフィック大学の単位認定に関して、IB プログラムの活用の仕方を検討する。ハワイ大学マノア校、ブリガム・ヤング大学ハワイ校とどのように異なるのだろうか。まず、単位認定に関する IB プログラムの活用の仕方ではブリガム・ヤング大学ハワイ校と共通する点は、すべての IB 科目について単位認定等の措置をとっている点であり、表7はそのうちの15科目を抜粋して示したものである。そして、この表7から言えることは次の2点である。まず、単位認定の基準となる IB 試験の成績は、ほとんどの科目が4以上となっており、「情報処理学」に関しては3以上の成績で単位を認定される仕組みになっている。これは、上述のハワイ大学マノア校やブリガム・ヤング大学ハワイ校が5を基準としていることと、IB ディプロマ取得に必要な合格点が4以上と定められていることに鑑みれば、IB プログラムによる単位認定の基準は低めに設定されていると言える。

次に、単位認定に当たって受験が必要となる試験のレベル（上級レベル、標準レベル）は科目によって異なる。マノア校の場合は、上級レベルの試験のみ単位認定の対象となっており、いっぽうでブリガム・ヤング大学ハワイ校はすべての科目についてどちらのレベルの試験でも単位認定の対象としていた。この点、ハワイパシフィック大学はその中間に位置し、科目ごとに上級レベルの試験しか許可しないものと標準レベルでも単位認定の対象とするものとに分かれている。例えば、上級レベルの試験のみを単位認定の対象としている科目には、「ビジネスと経営」、「化学」、「経済学」、「スペイン語」、「フランス語」がある。これらの科目は、「経済学」の IB 試験で成績が4以上であれば大学で開設される「経済学2010」と「経済学2015」の単位を認定するように、1科目の IB 試験によって複数科目の大学の単位を認定している。中でも、「ビジネスと経営」に関しては、「経営学1000」、「経営学3400」、「経営学3100」、「マーケティング3000」、「会計学2010」、「経済学3100」の16単位も認定している。

いっぽう、「生物学」は上級レベルのみならず標準レベルの試験によっても単位を認定している。そして、どちらのレベルの試験であっても単位認定の基準は成績が4以上であると定められている。ただし、上級レベルの試験で4以上を収めれば標準レベルで4を収めた場合より多くの単位を認定されることになる。例えば、「歴史」では、標準レベルの IB 試験の成績が4以上であったとき「歴史2001」の3単位を取得するが、上級レベルの試験では「歴史2001」と「歴史2002」の6単位を取得することができるのである。この傾向は、他にも「情報処理学」や「心理学」でもみることができる。しかし、「グローバル社会における情報工学」では、上級レベルの IB 試験でも標準レベルのそれであっても、その成績が3以上であれば「情報処理学1011」という同じ科目としての3単位を認定する仕組みになっている。

このように、IB プログラムによる単位認定に関しては、ハワイパシフィック大学はすべての IB

科目について認定の対象としており、さらにモノア校やブリガム・ヤング大学ハワイ校よりも認定基準となる成績を低く定めていることから、高大接続プログラムとしてIBプログラムを積極的に活用していることが推察される。

表7 パシフィックプログラム大学によるIBプログラムの活用システム

科目	成績	該当科目	単位数
生物学(HL)	4	生物学2050/2051、2052/2053	5+5
生物学(SL)	4	生物学2050/2051	5
ビジネスと経営(HL)	4	経営学1000、3400、3110、マーケティング3000、 会計学2010、経済学3100	16
化学(HL)	4	化学2050/2051、化学2052/2053	4+4
情報処理学(HL)	3	情報処理学2911、2912	3+3
情報処理学(SL)	3	情報処理学2911	3
経済学(HL)	4	経済学2010、2015	3+3
歴史(HL)	4	歴史2001、2002	3+3
歴史(SL)	4	歴史2001	3
グローバル社会における情報工学(HL)	4	情報処理学1011	3
グローバル社会における情報工学(SL)	4	情報処理学1011	3
スペイン語(Language B、HL)	4	スペイン語1100、1200	4+4
フランス語(Language B、HL)	4	フランス語1100、1200	4+4
心理学(HL)	4	心理学1000、社会学3100	3+3
心理学(SL)	4	心理学1000	3

出所) Hawaii Pacific University(2009). HPU and the International Baccalaureate(IB) Program.< <http://www.hpu.edu/index.cfm?section=admissions4336>> をもとに筆者作成。

3. 考察

(1) 3つの高大接続プログラムの相違点

ハワイ州に存在する三つの高大接続プログラムは、生徒が高校在学中に大学レベルの学習を経験し、試験で優秀な成績を収めればその単位も取得することができるという点で共通しており、高校生の大学教育への円滑な移行に貢献していると言える。また、高校在学中に大学レベルの授業を受けたり、あるいは実際に大学のキャンパスで授業を受けること自体が、生徒自身が興味関心を抱く分野を早期に発見し、あるいは自分の描く将来像を見直す機会となるかもしれない。

いっぽう、これらのプログラムの相違点としては、次のようなものがある。まず、高校生が授業を受ける場所が大学のキャンパスであるという点で、ランニング・スタートは他の二つのプログラムとは大きく異なる。APプログラムとIBプログラムに関しては、トレーニングを受けた高校教員が高校の教室で教鞭をとっているのである。そのため両プログラムでは授業を担当する教員のための様々なワークショップや夏期講習を実施している。さらに、APプログラムに関してはより多くの教員がそれらに参加することができるように財政的支援を行ったり、時間や場所に制限されずに参

加することができるようにオンラインでワークショップの内容が閲覧できるような環境も整えている²⁹。

また、プログラムの一環である試験に関しては、ランニング・スタートの場合は大学で実施される期末試験を受験することになるが、APプログラムとIBプログラムは統一試験が行われる。この点もランニング・スタートと他の二つのプログラムは異なると言える。ただし、受験資格についてはAPプログラムとIBプログラムでは異なる点がある。すなわち、AP試験を受けるにあたり、高校においてAP科目を履修していることが条件とされていないが、いっぽうIB試験を受けるには2年間のコース履修が必要となる。この点、APプログラムに関してはその機会がすべての高校生に開かれていると言え、実際ホームスクールの生徒や、自分が通う高校でAP科目が開設されていないため、独学で試験に臨む生徒もいる。近年は、そのような生徒を対象としたオンラインコースも登場し、プログラムの発展にかなり貢献していると言える。特にホームスクールの生徒のAP試験受験者数の増加は顕著である³⁰。

さらに、APプログラムとIBプログラムでは、評価についても異なる点がある。APプログラムの場合、成績評価の根拠となるものはAP試験の成績であるが、IBプログラムは試験成績に加えて担当教員の内部評価も含まれるのである。これは、生徒にとっては最終試験というプレッシャーの中だけでなく、学習成果を示す機会が多く、教員にとっても生徒の宿題の提出状況や授業への参加態度等、総合的な判断を下すことができるため、上手く機能すればかなり信頼性の高いものと考えられる。この点、APプログラムの場合は、誰でも受験可能ではあるが、受験者は最終試験という「一発勝負」で好成绩を取める必要があるためシビアであると言える。

このように、APプログラムとIBプログラムにはいくつかの違いがあるものの、両者に対するアメリカ国内での評価は高く、より多くの生徒をプログラムに参加させるため連邦政府や州は資金を投入している³¹。例えば、連邦政府は、数学と理科の学力を向上させるためにより多くの生徒をAPプログラムやIBプログラムに参加させ、また、新たにそれらのプログラムを担当する教員のトレーニングを行う計画を立てた。特にブッシュ政権の2007年度予算では、これらの計画に対して38億ドルも投入するよう調整したのである³²。

(2) セクター別

これまで、ハワイ州における高等教育機関がAPプログラムとIBプログラムの試験成績を、大学の単位認定にどのように反映させているか検討してきた。その中で、大学ごとにそれぞれのプログラムの活用の仕方を具体的にみてきたので、以下ではセクター別にその特徴がどのようなものなのかという点に関してまとめることにする。ハワイ州の高等教育機関が大学の単位認定に関してAPプログラムとIBプログラムの活用の仕方を比較して明らかになったことは、全体として、州立大学よりも私立大学の方がAPプログラムやIBプログラムといった高大接続プログラムを積極的に受け入れているということである。具体的に言えば、単位認定の対象となる科目が多様で、さらに単位認定の基準となる試験の成績を低めに設定しているのである。また、認定する単位数も多い傾

向がみられる。

例えば、AP プログラムについてハワイ大学マノア校は、「ドイツ語」や「スペイン語」等の言語科目や「アメリカ史」等の歴史科目を含む文系科目については試験成績が4以上の生徒のみに単位を認定している。そして、「芸術史」に関しては、AP 試験の成績が5でなければ単位を認定しておらず、かなり厳しい基準を設けていると言える。また、同じくハワイ大学であるヒロ校でも、マノア校よりその数は少ないが、「物理学 B」や「物理学 C」等、いくつかの科目に関しては AP 試験の成績が4以上でなくては単位を認定しない指針を立てている。いっぽう、私立大学であるブリガム・ヤング大学ハワイ校は、高校で AP 科目を履修し、AP 試験で3以上の成績を取めた生徒については、どの科目についても単位を認定している。また、ハワイパシフィック大学では、AP プログラムに含まれる37科目のうち30科目について、試験の成績が3以上であれば単位を認定している。さらに私立大学の場合、1科目の AP 試験によって2科目分の単位を認定されるケースが多くなっている。特に、「芸術史」に関しては、マノア校では試験成績が5でなくては単位の認定をせず、しかもそれは大学の1科目分の単位にしかならないが、パシフィック大学の場合は成績が3以上であれば大学で開設する2科目分の単位を取得することができるのである。

このような低めの基準を設定する背景には、より多くの学生を集めたいという大学側の狙いがあると考えられる。高校在学中により多くの大学の単位を取得すれば、入学後に時間的にも経済的にも余裕が生まれるため、これは学生にとって大学入学への大きなインセンティブとなるのである。また、AP プログラムは大学1-2年次レベルの学習を念頭に置いたものであるため、その試験で3以上を取める生徒が多く入学することは、優秀な学生を獲得したという意味で大学にとってもメリットであると言える。

ただし、州立であってもコミュニティカレッジに関しては、そのカタログやホームページを閲覧する限り、AP プログラムや IB プログラムによる単位認定に関する詳細な内容を掲載していないため、それらを積極的に活用しているとは考えられない。AP プログラムや IB プログラムはもともと優秀生徒を対象にしたプログラムであるため、コミュニティカレッジではあまりその必要がないことが推察される。

(3) プログラム別

次に、ハワイ州における高等教育機関の AP プログラムと IB プログラムによる単位認定の仕組みをプログラム別にみた場合の特徴を示すことにする。それは簡潔に言えば、IB プログラムよりも AP プログラムの方が活用されているということである。(1)に述べたように、AP プログラムの場合は州立大学と私立大学の単位認定の仕組みに異なる点はあっても、どの大学でも多くの AP 科目について単位認定等の措置をとっている。具体的な数字を示せば、州立大学の AP プログラムの認定科目でも、マノア校で37科目中の31科目、ヒロ校で23科目に関して単位認定等を行なっているのである。

いっぽう、IB プログラムについてみると、マノア校で認定する科目は16科目であり、ヒロ校に

関しては認定すらしていないことが推察される。さらに、モノア校で単位を認定するといっても、それは上級レベルの IB 試験で5以上の成績を取めた場合のみに限定している。たとえ標準レベルの試験で優秀な成績を取めたとしても、それによって大学の単位を認定されることはないのである。この点で、州立大学においては AP プログラムの方が IB プログラムよりも圧倒的に普及していると言える。これは、AP プログラムがアメリカ独自のプログラムであり、さらにその歴史も古いことがその理由として考えられる。また、AP 試験の作成にアメリカの大学が関わっていることも大学がプログラムに対して信頼を寄せる要因であるだろう³³。

ただ、私立大学では AP プログラムと同様に、すべての IB 科目に関して単位の認定を行なっている。ブリガム・ヤング大学ハワイ校では、単位認定の基準となる IB 試験の成績は7点満点中5点以上と定めている。この基準は、ハワイ大学モノア校と同じである。ただし、モノア校と異なるのは、試験のレベルについては問わない方針である。上述のとおりモノア校は、IB 試験の成績に基づいて大学の単位を認定する際、標準レベルの IB 試験は認めておらず、単位認定の対象となるのは上級レベルの IB 試験のみである。しかし、ブリガム・ヤング大学ハワイ校では標準レベルであっても上級レベルであっても試験の成績が5以上であれば単位の認定を行なっている。

このように、ブリガム・ヤング大学ハワイ校では IB プログラムによる単位認定も幅広く行なっているが、ハワイパシフィック大学もそれを積極的に受け入れている。まず、ハワイパシフィック大学は単位認定の基準となる試験の成績をほとんどの科目について4以上と設定している。さらに、「情報処理学」に関しては3以上の成績で単位を認定している。これは、上述のハワイ大学モノア校やブリガム・ヤング大学ハワイ校が5を基準としていることと、IB ディプロマ取得に必要な合格点数が4以上と定められていることに鑑みれば、ハワイパシフィック大学の IB プログラムによる単位認定の基準は低めに設定されていると言える。また、単位を認定するための IB 試験のレベルについては、科目ごとに異なる。例えば、上級レベルの試験のみを単位認定の対象としている科目の中には、「ビジネスと経営」があるが、この試験で4以上の成績を取めれば、「経営学1000」、「経営学3400」、「経営学3100」、「マーケティング3000」、「会計学2010」、「経済学3100」の16単位を認定されることになる。いっぽう、標準レベルでも単位を認定されるものには「歴史」がある。ただし、上級レベルの試験で4以上を取めれば標準レベルで4を取めた場合より多くの単位を認定されることになる。例えば、「歴史」では、標準レベルの IB 試験の成績が4以上であったとき「歴史2001」の3単位を取得するが、上級レベルの試験では「歴史2001」と「歴史2002」の6単位を取得することができるのである。

このように、IB プログラムによる単位認定に関して、ハワイパシフィック大学はすべての IB 科目について認定の対象としており、さらにモノア校やブリガム・ヤング大学ハワイ校よりも認定基準となる成績を低く定めていることから、高大接続プログラムとして IB プログラムを重視していることが推察されるのである。

おわりに

以上本論で、ハワイ州における高大接続プログラムの単位認定について検討してきた。ハワイ州では学力が優秀な高校生を対象とした高大接続プログラムとして、ランニング・スタート、APプログラム、IBプログラムの三つが実施されている。これらのプログラムは、その実践方法にいくつかの違いはあるものの、優秀な高校生に大学レベルの学習を経験させ、さらに大学の単位を取得することができるという点で共通しており、高校生を大学教育へ円滑に移行させることに貢献している。そうしたなかで相違点として明らかになったのは次の三点である。

第一に、4年制の高等教育機関と2年制のそれとを比べると、2年制にはこうしたプログラムをどう活用するのかについて明文化されていないという共通点がみられる。そうした規定が公開されていないということは直ちにそれらを活用していないということではなく、単位認定等の事態がそれほど頻繁に起こらないので、わざわざ明文化する必要がないということであろう。例えば、コミュニティカレッジでは、「AP等の成績があれば提出すること」³⁴と言及されていることから明らかである。オープンアドミッションを原則とするコミュニティカレッジを志望する生徒と学力優秀な生徒に対して提供されるプログラムに参加した生徒とは基本的に異なっていることが十分考えられる。言い換えれば、2年制の高等教育機関はあくまで個別対応でそのときに考慮するということが原則になっている。

第二に、大学における単位認定という面を公立セクターと私立セクターとで比較した場合、私立大学のほうがより多くの科目を認めていることがわかる。言い換えれば、州立大学よりも私立大学の方がAPプログラムやIBプログラムといった高大接続プログラムを積極的に受け入れているということである。例えば、AP科目は全部で37科目あるが、州立大学のマノア校では31科目、またヒロ校では23科目であるのに対して、私立大学であるブリガム・ヤング大学ハワイ校ではすべてのAP科目について認定し、またハワイパシフィック大学では30科目とほとんどすべての科目を認めていることがわかる。

第三に、第二に関連して単位認定のための成績で言えば、私立大学の方が低く設定していることがわかる。例えば、APプログラムを運営するカレッジボードは、5段階評定のうち試験の成績が3以上であれば大学の単位として認定されるとガイドラインを示している。また、IBプログラムの場合は7段階評定のうちの4以上が合格点となっている。しかし、この原則を適用しているのは私立大学のみで、州立大学ではAPは4以上としてかなり高く設定していることがわかる。私立大学がこのような低めの基準を設定する背景には、より多くの優秀な学生を集めたいという大学側の狙いがあると考えられる。

第四に、プログラム別で見た場合、州立大学に限って言えば、IBプログラムよりもAPプログラムの方がより多くの科目を認定していることがわかる。例えば、IBプログラムについてみると、マノア校で認定する科目は16科目であり、ヒロ校に関しては認定すらしていないことが推察される。さらに、マノア校で単位を認定するといっても、それは上級レベルのIB試験で5以上の成績を収めた場合のみに限定している。たとえ標準レベルの試験で優秀な成績を収めたとしても、それによ

て大学の単位を認定されることはないのである。この点で、州立大学においては AP プログラムの方が IB プログラムよりも圧倒的に普及していると言える。これは、AP プログラムがアメリカ独自のプログラムであり、さらにその歴史も古いことがその理由として考えられる。また、AP 試験の作成にアメリカの大学が関わっていることも大学がプログラムに対して信頼を寄せる要因であろう。

最後に、本論で言及したことは、あくまでハワイ州のケースであり、これらをもって全米の傾向として語るができないことは言うまでもない。また、単位認定について上記のような傾向があるにしても、別の角度から、つまりハワイ州内の高校でどの高校がどんなプログラムを提供しているか、そしてそうした傾向はどうして起こるのかについても詳細に検討しなければならない。この問題を今後の課題としたい。

【註】

- 1 荒井克弘・橋本昭彦(編)『高校と大学の接続』玉川大学出版部、2005年。
- 2 荒井克弘(編)『大学のリメディアル教育』広島大学高等教育研究開発センター、1996年。
- 3 文部科学省高等教育局大学振興課「大学への早期入学及び高等学校・大学間の接続の改善に関する協議会報告書」『大学資料』175号、2007年、1-39頁。
- 4 Byrd, S. (2007). *Advanced Placement and International Baccalaureate*. Thomas B. Fordham Institute.
- 5 河合久「第9章 ワシントン州における高大接続プログラム」『今後の後期中等教育の在り方に関する研究』国立政策研究所、2007年、389-400頁。
- 6 腰越滋「第6章 能力観の転換と高大接続—ミネソタ州を事例として—」荒井克弘・橋本昭彦(編)『高校と大学の接続』玉川大学出版部、2005年、139-155頁。
- 7 相良憲昭・岩崎久美子(編)『国際バカロレア—世界が認める卓越した教育プログラム—』明石書店、2007年。
- 8 もう一つの大きな理由は、州別の SAT の平均点から明らかなおと、ハワイ州は学力の低い州として位置づけられているため、こうしたプログラムに積極的に取り組んでいるからである。
- 9 テク・プレップは職業教育に特化したプログラムであるため、アカデミックな面を主として強調する残りの三つとはかなり趣旨が異なっている。そのため、本稿では対象から割愛することにする。
- 10 College Board (2009). College Search.
<<http://collegesearch.collegeboard.com/search/servlet/advsearchservlet?buttonPressed=viewResults&navigateTo=9&viewpage=1>>
- 11 The Chronicle of Higher Education によれば、ハワイ州に存在する高等教育機関は23校となっているが、カレッジボードはその中で認可された大学のみを掲載しているため17校としていると推察される。
- 11 これらの他に、大学の単位を取得することができるプログラムとしては CREP (College Level Examination Program) もある。ただし、このプログラムへの参加機会は高校生にも開かれているものの、参加者のほとんどが大学で再び学習することを望む社会人である。本稿では、高校生が参加する高大接続プログラムによる単位認定に焦点を当てるため、CLEP への言及は割愛する。College Board (2009). Who Takes CLEP? <<http://professionals.collegeboard.com/higher-ed/placement/clep/advise/who>>
- 12 GEAR UP HAWAII (2009). Running Start. <<http://gearup.hawaii.edu/index.php?q=programs/runningstart>>
- 13 UNIVERSITY OF HAWAII COMMUNITY COLLEGES (2009). Getting Started.

- <http://uhcc.hawaii.edu/getting_started/FAQs.php>
- 14 U.S. Department of Education(2009). GEAR UP.
<<http://www.ed.gov/programs/gearup/index.html>>
- 15 State of Hawaii Department of Education (2009). GEAR UP Running Start Scholarship.
<http://www.hawaii.edu/runningstart/GU_Scholarship_0811.pdf>
- 16 The University of Hawaii System (2009). Running Start. <<http://www.hawaii.edu/runningstart/>>
- 17 UNIVERSITY OF HAWAII (2004). UH Press Release.
<<http://www.uhh.hawaii.edu/news/press/release/332>>
- 18 College Board (2009). Exam Fees and Reductions : 2009
<<http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/exam/calendar/190165.html>>
- 19 College Board (2008). Annual AP Program Participation 1956-2007.
<http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/repository/2007_Annual_Participation.pdf>
- 20 International Baccalaureate Organization (2008). The International Baccalaureate North America.
<http://www.ibo.org/ibna/actionkits/documents/Introduction_001.pdf>
- 21 吉田孝「国際バカロレア・カリキュラムの概要」『国際バカロレア—世界が認める卓越した教育プログラム—』明石書店、2007年、26-28頁。
- 22 同上、30-32頁。
- 23 同上、15頁。
- 24 College Board (2008). *The 4th Annual AP Report to the Nation*.
- 25 BYU HAWAII (2009). ADVANCED PLACEMENT(AP) CREDITS.
<http://apps.byuh.edu/catalog/Current/Policies_&_Procedures/Admission/AP_Credits.php>
- 26 University of Hawaii Manoa (2009). International Baccalaureate.
<<http://manoa.hawaii.edu/admissions/undergrad/pdf/IB.pdf>>
- 27 UNIVERSITY OF HAWAII HILO (2009). Writing Placement Exam.
<<http://www.uhh.hawaii.edu/academics/wpe/>>
- 28 Ibid.
- 29 College Board (2009). Online Events. <<http://professionals.collegeboard.com/prof-dev/online>>
- 30 *Education Week*, April 26, 2006. More Home Schoolers Taking Advanced Placement Tests.
- 31 Byrd, S. (2007). *Advanced Placement and International Baccalaureate*. Thomas B. Fordham Institute.
- 32 *Education Week*, February 8, 2006. Bush Proposes Math and Science Initiatives.
- 33 College Board (2009). Course and Exam Development.
<<http://apcentral.collegeboard.com/apc/public/courses/2024.html>>
- 34 University of Hawaii Community College (2009). Getting Started.
<http://uhcc.hawaii.edu/getting_started/admissions.php>

A Study of Credit Recognition of College-bound Programs in the State of Hawaii

Yoshikazu OGAWA

(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

Kaori ONODERA

(Graduate Students, Graduate School of Education, Tohoku University)

This study examines the features of credit recognition by higher education institutions regarding college-bound programs in the State of Hawaii. Currently three programs, such as a Running Start, Advanced Placement Program, and International Baccalaureate Program, are offered for high school students in Hawaii. Although there are some differences in their practices among these programs, they have the commonalities of making excellent high school students experience the college-level studies and also give the opportunities to acquire the college credits. Namely, they play the role of smooth transition from high school to college for high school students. Through the analysis, four points are made apparent as the differences regarding the credit recognitions by higher education institutions in Hawaii. First, compared four-year colleges with two-year ones, the latter ones have the similar tendencies not to have the guidelines about utilizing those programs. It does not suggest two-year colleges do not recognize those programs, but imply that there are few cases of recognizing those programs as college credits among two-year colleges. Second, compared public sector with private one, private ones recognize more subjects of those programs as college credits. In other words, private universities, rather than state ones, accept positively AP program and IB program. Third, in relation to the second point, private universities set the lower standard, recognizing the scores of the examinations of those programs. For example, College Board, which manages AP program, indicates in the guideline that colleges should recognized as college credit if the score is above three among five scores. Similarly, in the case of IB program, above four scores should be accepted as college credit among the seven scores. Only the private universities, however, apply these principles and, instead, state ones set the higher standard – for example, the score of four or five is accepted in the case of AP program. Fourth, among the state universities, AP program is more popular as college credit than IB program, which is because AP program is the U.S. origin and has the long history.

Key words : Hawaii, AP program, IB program, Running Start, Credit Recognition